

第二章 第二百二十三師團の状況

第一節 師團の編成より蘇聯参戦迄の状況

要 旨

第二百二十三師團は昭和二十年三月十日滿洲黑龍江省孫吳に於て編成せられたり。其の骨幹となりたるは獨立混成第七十八旅團なり。編成當時に於ける兵の素質は不良にして而かも開戦迄に編成替へに次ぐに編成替を以てせる為各部隊の團結、教育、訓練に大なる支障を來したり。

師團は斯る惡条件の下に萬難を併して作戦準備の為の教育と築城を行ひたる結果、開戦時に於ては概ね防衛戦團の遂行可能の域に達しありたり。

開戦時に於ける師團の戦力は編制裝備、團結、將兵の素質等を綜合すれば概ね歩兵一聯隊を基幹とする一支隊の程度と見て大差なし。

第一 師團の編成より昭和二十年五月末頃迄の状況

一、常駐配置 附図第一の如し

二、作戰準備状況

1. 作戰計畫

師團の編成完結より昭和二十年五月末頃迄の間は期間も短かく且其の間編成非常に多く態勢亦浮動しありて作戰計畫を決定し得ざりし爲旧獨立混成第七十八旅團の計畫を踏襲せり。

2. 築城

師團正面には奇克特、勝武屯、壕埧、神武屯附近に直接黒龍江に沿つて進道せられたるもの及北條吳附近に建設せられたるコンクリート製永久築城あり。本築城施設は其の目的及守備兵力に於て現状と相違あるのみならず施設稍々旧式にして予想する師團の作戰に利用し得るものは其の一部に過ぎざりき。

3. 後方準備

師團は第四軍所屬の在綏吳各補給廠より總ての補給を受けあり。

此等補給廠は從來の作戦準備の結果頗る膨大なるものなりきり
交通、通信

黒河、孫吳、北安、哈爾濱道及同上の鐵道（濱北線、北黒線）を
主要幹線とせるも対空防護施設は無し。

対地上防護の施設としては主要なる橋梁にペトン製火点を有し平
時は配兵しあらず。

江岸警備隊よりの警備通信は平素より完備せられ、軍司令部と各
警備部隊間に直通電話を有し主要な警備部隊間には無線の副通信
施設を有したり。

5. 教育訓練

師團の教育訓練は予想する任務に基き左の諸項目に重点を置き専
ら孫吳附近の防禦戦闘に應ずる教育訓練を実施せり

イ、既設陣地に據る防禦戦闘

ロ、対戦車肉迫攻撃

八、白兵格闘

二 通信及歩兵重火銃教育 砲兵對戰車射撃

ホ 築城の教育

(イ) 既設障地に據る防禦戰闘

本教育の爲師團は從來出入禁止地帯としてあつた孫吳附近の築城地帯に教育の爲出入する事を得しめ各部隊をして予想占領陣地に於て實際に即したる教育を行はしめたり。

軍に於ては當師團及在神武屯第一二五師團に命じて小隊防禦戰闘、對戰車戰闘及遭遇戰の模範教練を計畫實施せしめ之を兩師團の將校に見學せしめて幹部教育を行ひたり。此の教育は素質低き將校等に非常に有効なりき。

(ロ) 對戰車肉攻

本教育は特に重視し師團長以下悉く自ら肉攻の教育を受くると共に各部隊を査閲し大いに教育を推進せり。

（イ）白兵格闘

白兵格闘は當時の兵の素威、戦場の教訓等に鑑み上司より特に
勅令（一軍刀に於ても）を重視する如く指示ありしを以て此の主
旨に基き軍並に師團に於て取同剣術競技会を備し相當の成績を
収めたり。

（ロ）通信、歩兵重火器、砲兵射撃各教育

師團の戦力上の弱点は特に通信及歩兵重火器教育にありしを以
て、師團は查函或は師團の計畫に基き演習等を行ひ成果の向上
を計りたり。

尙対戦軍射撃は砲兵として最も緊要とする情勢なりしを以て配
属砲兵としての対戦軍射撃につき十分の訓練を行はしめたり。

（ハ）築城の教育

築城は師團作戦準備の重要事項にして五月下旬頃より全力を奉
げて工事に着手せざるべからざるに一般の之に關する知識は頗

0762

る不足なりしを以て軍は孫吳附近に一の模範陣地を造り之に依つて各師團に教育を行ひ、師團も亦之を利用して普及徹底を計り、築城開始迄には概ね工事の實行に支障なきに到れり。

6. 情報収集

師團正面の綏軍の情况及師團警備地域内の諸情報は黒龍江岸に直接配備せる監視部隊、關係憲兵隊等よりの通報に依るの外全般の情報、滿洲國側の情勢等は軍よりの通報に據りたり。

7. 国境警備

烏雲（一小）、奇克特（一中）、遜河（一小）、勝武屯（一大）中欠、十加、二に夫々警備隊を配置し之等の部隊より江岸の要所に監視哨を設置して対岸を警戒監視せしめたり。（附圖第一參照）

其の報告は直達軍に有線若くは無線を以て行ふことと規定せられたり。

編制裝備の變動

部隊の編成一動員、編成改正、復歸

師團の編成完結後概ね一ヶ月半は比較的移動少なく教育訓練に精進し得たるも、爾後は關東軍の不斷の編成改正に依り相次いで兵員の抽出、派遣等ありて部隊の内容は常に變化し部下の掌握、教育訓練に著しき支障を來したり。然れども部隊其のもの、編制改正は無かりき。

第二百二十三師團の編制及部隊長名は左の如し。

| | |
|--------------|-------|
| 師團長 | 北澤貞次郎 |
| 歩兵第二百六十八聯隊長 | 山中高助 |
| 歩兵第二百六十九聯隊長 | 後藤三平 |
| 歩兵第二百七十聯隊長 | 太田紀一 |
| 野砲兵第二百二十三聯隊長 | 町田賢助 |
| 工兵第二百二十三聯隊長 | 広川文雄 |

輜重兵 第二百二十三聯隊長

延進大隊長

師團通信隊長

兵務勤務隊長

病馬廠長

阿部 武雄

露木 雄造

長谷川 義雄

清水 吾一

榎本 由成

2. 部隊の増加

昭和二十年五月中旬第四軍司令部の孫吳より齊々哈爾移動に伴ひ在孫吳兵務廠及第四軍所管の補給關係諸倉庫は悉く師團の指揮下にに入り業務は著しく増大せり。

3. 兵務、資材

師團は編成早々にして兵務資材は十分とは云ひ難かつた。即ち師團全設として後方の關係資材は比較的充實しありたるも第一疎兵器特に擲彈筒、歩兵重火器、砲兵挽具不足し、作戰時砲兵の機動力を欠く状態なりき。

0765

第二 昭和三十二年六月より蘇聯参戦迄の状況

一、配置又は配備の変更

1. 軍の方針は孫吳附近の主陣地にて抵抗し江岸に於ける大なる抵抗を期待せざる為逐次左の如く配置を変更せり。

A 奇克特以東の江岸警備隊の兵力を縮少して要点に監視哨を配置するに止め、奇克特には一小隊を配置す。

B 遜河の一小隊に奇克特より撤退する一小隊を加へ一中(一小隊)とす。

C 勝武屯は前進陣地として最も重要なるを以て兵力を減少する事なく又部隊の素質も現役兵のみの部隊とし、編成替等に際しても人員の轉出入を努めて避け以て師團の部隊中最精銳を期したり。

2. 七月以降第六國境守備隊を基幹として獨混第三十五旅團を編成せられ師團の指揮下に入らしめられたるを以て師團の守備地域は廣

大せられたり。之より先脚武屯駐屯第一二五師團は六月通化方面に移動せるを以て其の担任しありし地域も師團の管轄となりたり。依つて師團長は獨立混成第一三五旅團長に対し旧第三五師團の管備地畝をも併せ管備を命じたり。

0767

同旅團は黒河附近以北を歩兵一大隊を以て管備せしめたり。
3. 北安より移駐せる歩兵第二百六十九聯隊を孫吳の空兵舎に收容す。

二 作戰準備

1. 新作戰計畫

師團は六月頃迄に概ね左の如き作戰計畫を立案す。但し立案當時尙獨立混成第一三五旅團の指揮關係明瞭ならざりしを以て之が明示と同時に所變の修正を行へり。

第二百二十三師團作戰計畫の要旨

一 方針

一 孫吳附近の既設陣地を確保し敵を陣地内外に撃滅す敵若し一部

を以て我に對せしめ主力を以て南下する場合にありては敵の背後を脅威し軍主力の作戦を容易ならしむ。

→ 止むを得ざるも既設陣地を死守し増援部隊の來着を待つ其の期間には概ね三ヶ月とす。

三 要 領

一 蘇軍の黒龍江渡河に當りては沿岸警備部隊を以て極力之を妨礙し其の渡河を遲滞せしむ

二 沿岸警備隊及監視哨は所定の目的を達成せば敵と接觸しつゝ、遂次主陣地内に後退せしむ。

後退の時期は監視哨は適時、警備隊は別命により、撤退に際しては所要の挺進部隊を各所に殘置し敵を擾亂す

三 前項各部隊の撤退に際し適時主要交通網を破壊し敵の前進を遲延せしむ

四 各部隊は各々其の陣地を固守す

0768

各部隊は盛んに延滞断込隊を派遣し敵の司令部、砲兵隊、戦車隊等
を急襲し以て師團の戦闘を容易ならしむ

三八

三 記 備

陣地占領要領附図第三の如し

四 現地住民の処置

日本人（地方人、軍人家族、義勇隊等）は陣地内に收容し之を
掩護す但戦闘参加を希望するものめらば死傷者の收容、看護、
弾薬搬送等に使用することあり

五 補 給

戦闘開始迄に陣地内に各富該守備部隊の三ヶ月分の糧食及少く
も一會戦分の弾薬を累積す

六 通信連絡

通信起点は師團司令部の位置とし第一線各部隊との間には有線
通信網を構成す但し砲弾による切断を願慮し地下埋設を行つと

0769

共に無線設備を十分に整備す

此の際無線探知による司令即位置の標定を願慮して無線發信所の位置を選定す

軍及其の後方との連絡は作戦開始と同時に常設有線通信を従とし無線通信を主とす

七 築 城

築城は漸進構築法により、五月末迄に一般野戦築城を、七月末迄に野戦に於ける大口徑砲の連發射撃に抗し得る如く地下設備を構築す

2. 新施設及築城旧施設の処置

軍の作戦計畫に據り五月中旬頃より孫吳附近新陣地の構築に着手す。

師團は最初より稍堅固なる野戦陣地の構築を企図したるも、軍の指令に基き左の如く漸進構築法により作業す

第一次 五月末迄

輕易なる野戦陣地

四〇

第二次 七月末迄

稍堅固なる野戦陣地に増強

右の備案中餘裕ある部隊は更に地下十數米に及ぶ地下施設を構築し、尙武器、彈藥、糧食收容の爲師團經理部及兵器部に於て夫々地下施設を構築せり。

右の外師團の作戰計畫に基き既存の陣地中防禦戰團に利用すべき部分の補修、射界の清掃、通信網の整備補修を行ひたり。

(1)當初軍は状況により棘下の二ヶ師團を孫吳附近に集結して防禦戰團を實施する場合あるを考慮し師團は二ヶ師團を收容し得る陣地を構築せしめられたり。

其の後神武屯の師團南方に移動するに至れるも陣地は依然として緊縮せられざりき。

又壕堙一二期一級江一齊々哈爾道掩護の爲二站附近に歩兵二大隊砲兵一大隊を基幹とする部隊の爲の陣地構築を命せられたり。

0771

(四) 歩兵陣地

敵の熾烈な砲撃、飛行機の爆撃及対地攻撃並に戦車の攻撃を顧慮して散兵坑を掘し得る限り分散配置し且陣地直前及陣内到處に戦車肉迫攻撃の爲の潜伏坑を配置す。

歩兵重火器は陣地の内外を斜射側射する如く置き且各々若干の予備陣地を設けたり。

(五) 戦車に対しては砲兵の主力を第一線歩兵大隊に配属し之を歩兵陣地内に分散秘匿する如く陣地を構築す。

又三角断面の対戦車壕を陣地直前に構築し之を側防し得る如く砲兵陣地を配置せり。

尚師團陣地北側の谷地には谷流を利用して氾濫を起し得る様に準備す。

(六) 砲兵陣地の内一部は砲兵隊長の直轄として陣地の中央附近に設けり。既設陣地内に在りし二四榴四門は其の儘現位置に備す。

たり。

(六) 主要通信網は地下に埋没せり。

(七) 各部隊の占領地内には當該部隊の爲の彈藥糧食の集積所を設
備せり。又時間の餘裕に従ひ地下若くは山腹に深く洞窟を掘開
せり。

(八) 二師の陣地は投擲部隊に若干の師團工兵隊を配屬して構築を開
始せり。時既に七月中旬なりしが督促之努めたる結果七月末頃
辛うじて野戦陣地を完成せるも彈藥、糧食の集積は甚だ不十分
なるものなりき。

3. 後方（兵站）關係

第四軍司令部移動以後に於ける補給は直接師團に於て現地の倉庫
より行ひたり。

軍需品は糧食にして作戦には十分間に合ふ丈の數費を有したり。

交通、通信

軍の設備を其の儘師團に引継ぎたるを以て特に變更の必要なかりき。

5. 教育、訓練

特に教育訓練の變更を來したるものなきも、人員の移動、編成改正等頻繁に行はれたると而かも其の當時陣地構築に全力を挙げて着手し各部隊は工事の現場に起居して是に専念しありたる為、教育訓練の必要を痛感しつゝも徹底せる教育を行ふを得ざりき。各部隊は工事現場に於て朝夕の餘暇を利用し射撃、肉攻、銃剣術等の教育を行ひ技能の淬磨と士氣の昂揚を図りたり。

6. 情報収集

第四軍司令部の移駐に伴ひ情報は各江岸監視部隊より直接師團が受領することゝなれり。加之情報収集の範圍は廣大なる地域に擴張せるを以て通信連絡の設備を一層整備し且黒河特務機關及憲兵隊と連絡を密にして万全を期したり。

三、編制、裝備の變動

1. 部隊の編成

(4) 六月末師團進進大隊を編成せられたり。

長は砲兵大尉 露木甚造 人員 一一一三名

(5) 七月末孫吳憲兵隊は廢止せられ、憲兵其の他の部隊を以て特別
警備隊を編成せらるゝ事となり、師團は大いに其の編成を援助
したが開戦迄に編成完結せず。

長は憲兵少佐 田中是直なり。

2. 兵站資材の變動

(1) 兵站資材關係に於て師團が最も不安に感じたるは対戦車爆薬の
不足なりき。

師團は百万手数を尽して之を製造し各部隊に分配せるも其の數
少く所望の量に達し得ざりき。

(2) 開戦直前勝武屯營備隊にある十加及其の彈藥抽出轉用すること

となり、其の大部を搬送し終りたる時開戦となり、師團は十加
一門と少數の彈藥を有するのみとなれり。

い孫吳に在りたる築城及建築材料を軍命令により多量齊々哈爾方
面へ輸送せり。

第三 对蘇作戦實行期の状況

一、蘇聯參戦直前の態勢

1. 兵力配置

附圖第二の如し。

2. 戦力状況

蘇聯參戦時に於ける師團の戦力は冒頭に記述せる如く其の實力歩
兵一聯隊、砲兵一大隊を基幹とせる支隊程度なり。尙獨立混成
第三百三十五旅團の戦力は、師團に比し團結、築城、訓練等遙かに
優秀なりし爲、實力に於ては師團と大差なきものと判断す。

（同旅團は從來の既設陣地で戦闘を終始せり。）

右の外開戦に方りては當時孫吳に在りたる左記部隊は別命なく師團に配属せらる。

(1) 關東軍特種情報隊の一部

(2) 關東軍防渡給水部 孫吳支部

(3) 特別警備隊の一部

第十八野戦兵器廠にルノ一旧型戦車及装甲車各一台ありしを以て

陣地の中央に秘匿配置せり。

尙部隊中には朝鮮人にして初めて徴兵として入隊せる者及開戦直前招集せられて入隊せる者多數ありたり。

3. 作戦準備の程度

孫吳附近の陣地は計畫に基き概ね七月下旬頃構築を了りたるが更に時間の許す限り補強する目的を以て地下棲息所、彈藥集積所等比較的深き地下工事に着手せるも未だ完成せざるに開戦となれり。陣地は直ちに作戦に支障なき状態なりしも彈藥糧食の集積は未だ

0777

十分ならざりき。

依て師團は為し得る限り速かに計費に應ずる彈藥糧食の集積に着手せるも當時連日の降雨の爲道路泥濘を極め自動車の運行意の弱くならず所架の數量を集積し待ざる間に戦闘開始となれり。

各部隊の狀態

部隊は概ね作戰計畫に基き守備陣地に在つて築城作業を行ひありたるを以て開戦と共に第一線部隊は若干の配備變更を行ひたるのみにして直ちに其の儘戦團の感勢に入りたり。

關東軍特種情報隊は予定計畫に基き師團司令部附近の陣地に、防接給水部は師團予備隊の位置たる陣地中央の凹地に位置す。第十八野戦兵器廠は所命の位置に就く事なく陣地外の既設陣地に入りたり。

通津立河を隔て、主陣地に對する南陽山（勝武屯―北安道上）は勝武屯替備隊後退の後之を占領する豫定なりしが戦況之を許

さるるを乘じ、師團延遠隊をして之を占領せしめ延進攻隊の據点
とし併せて敵の南下を阻止せしむることとせり。而して勝武屯營
備隊は直路主力の陣地内に後送して師團後備隊となる如く計畫を
變更せり。

孫連參戰當時の情況

一 作戰に影響せる天候氣象

七月末頃より八月初頭に亘り陣雨連續し、開戰當時は孫吳附近の
道路は車輪の通過に非常な困難を來したり。又孫吳、北安、哈爾
濱道は河川氾濫して通行至難になれるのみならず、哈爾濱、孫吳
間の鐵道も亦遼河の氾濫により作戰初期より一貫せる運行不能
となり途中徒歩連絡によるに至れり。

二 作戰直前に師團の得たる敵情

全般情勢に關しては軍より何の通報も受領せず。師團としては何
等判断すへき情報なく單に新開等に依り當分蘇軍の出撃は無かる

へく若し有りとなれば、來春不戰条約満了後なるべしと推測したり。

五月末頃より師團警備地域の対岸に於て蘇兵の演習繰り返され且之と同時に奇克特前面の引込線に卸下施設らしきものを設備せるも師團は蘇軍演習の爲の施設なるべしと判断しありたり。

八月初頭奇克特前面の河岸に蘇軍將校五六名出現し地圖を案しあるを目撃す。

又概ね其の頃軍參謀牧大佐は飛行機により黒龍江に沿ひ師團作戰地域の上空を飛翔し敵地域の極めて平靜なるを報告せり。

三、爾後の作戰經過

作戰第一日（八月九日）

五時頃滿洲國の東西兩國境を突破して有力なる蘇軍進入を開始せる旨の通報あり。

前報は直ちに之を蘇下諸部隊に傳達し機關部隊に就かしむるを共に

引續き陣地の補修、兵講彈藥、糧食の集積を一層強行すへきを^{五〇}命令す。

凌陣部隊の陣地占領に關しては軍司令官より特に「一部を以て凌陣附近を主力を以て二站附近を占領せしむべき」旨命令せられたり。軍としては敵機械化部隊の直路齊々哈爾に突進するを顧慮したる為なり。然れども二站附近の陣地は補藥着手遅かりし為開戦當時に於て辛うして容易なる野戦陣地を構築したる程度にして彈藥糧食の集積殆んどなく頑強なる抵抗は到底期待し得ざる状態なりき。従つて今之に有力なる凌陣部隊の主力を投入して防禦せしむる事は師團の戦力を著しく減殺し結局軍の爲に有利ならざるべき見地より、一部を以て二站、主力を以て凌陣を防禦する様再三意見を述べても軍の容るゝ処とならず。遂に師團長も亦混成旅團長に命ずるに軍司令官の意図を以てせり。

獨立混成第一三五旅團長は師團^の意見が軍司令官に容れられざるを知

るや師團命令にも拘はらず、玉力を破壊に一部を二站に配置して戦
闘準備を整へたり。

師團司令部は十八時陣地内の予定位置を移動し孫吳街の司令部廳舎
は之を焼却す。

江岸警備隊及監視哨は一層監視を嚴にし且敵の渡河企図に対し特に
十分なる監視と迅速なる報告を行ふ如く指導せるも此の日勝武屯対
岸及奇克特河岸附近の熱江上に中型汽船の上下航するを散見した
るのみにして平靜なりき。

師團は敵の渡河を今、明日中の夜間ならんと判断し、真面目の戦闘
開始迄に為し得る限り多くの弾薬資材及糧食を陣地に搬入する如く
警勵す。

然れども数日來の降雨の爲道路既損し集積容易に進歩せず。

作戦第二日（八月十日）

状況は概ね前日に同じく敵の偵察飛行盛んに行はる。

昨夜以來有力なる敵部隊熱河上流方面に於て渡河を開始し、呼瑪及
其の下流の沿岸警備隊の消息不明となり、全滅の報亦頻りに傳へら
る。師團は敵の眞面目の渡河は或は此の方面より行はるゝに非ずや
として警戒を嚴にす。

本日以陣無龍江省内に居住せる在郷軍人は三々五々應召して陣地に
直接入隊し來れり。

作戰第三日（八月十一日）

本日敵は勝武屯及凌源正面より一齊に渡河を開始し夜に入るも之を
續行す。各江岸警備部隊は予定計畫に基き戦闘を開始し、就中勝武
屯の村上警備隊は警戒之努の過重せられたる十加を以て黒龍江河岸
に激陣しある敵激化砲兵と交戦し相當の損害を與へたるも彈丸不
足の爲極度に窮乏しつゝ、好機に投して討襲す。

此夜彈藥補充の爲輜重隊より三回に亘り村上部隊に小隊を派遣せる
も、目的を達したるは一回のみにして他の二回は既に我が警備部隊

0783

を浸透して進入せる敵小部隊の補阻止せられ目的を達成し得ず。
作戦第四日（八月十二日）

敵軍は昨十一日に引續き燕龍江を渡河し勝武屯及壕壕陣地を攻撃す
師團は當初勝武屯の警戒陣地は輕戦の後後退せしむる計畫なりしも
主陣地内の彈藥及糧食の集積準備希望通り容易に進捗せざりし爲止
むを得ず時間の餘裕を得る目的を以て、村上勝武屯警備隊に別命あ
る迄頑強なる抵抗を續行すへきを命じ且彈藥糧食の集積を一層督促
す。各部隊就中輜重隊は必死の努力を繼續し懸路を排して集積に努
力す。

此の朝夕刻軍より敵の燕龍江半渡に乗じて出撃を懲慚し來りしも、
敵機械化部隊既に壕壕方面に於ても渡河しある現況に於て妄りに陣
地を捨て、遠く勝武屯方向に突進することは航空及戰車等の支援を
期し得ざる現況に於ては適當ならずと認め實行せず。

此の夜師團配屬の關東軍特種情報隊より一敵の有力なる機械化部隊

らしきもの壕溝方面にあり又別に同様有力な戦軍部隊らしきもの奇
克特附近より南進し遂次遼河（地名）に近接しつゝあるものゝ如し
との電波情報を出せり。

依て師團は^{一甲}歩兵第二師團を採吳一遼河（地名）道上既設前進陣地に

急派し、勝武屯替備隊の右翼に連繫して陣地を占領し遼河方面より
前進する敵を阻止せしむ。

此の日師團當面の敵兵力を左の如く判断せり。

△勝武屯及奇克特附近より遼河しつゝあるもの

歩兵師團 二 機械化兵團 一

△壕溝方面より遼河しつゝあるもの

歩兵約半師團 機械化兵團 一

尙燕河附近及其の以北より若干遼河したるものあるも詳細不明なり。

師團は敵の進攻を顧慮し軍需品の積舎、兵營、倉庫其他敵の利用の

虞ある諸施設を敵に近き方より逐次焼却を開始す。

0785

作戦第五日（八月十三日）

本日敵の概河及前進部隊に對する攻撃は活潑ならず。

作戦第六日（八月十四日）

師團の彈藥及糧食の集積は概ね目的を達成（彈藥は概ね一會戦分を
集積し糧食は若干予定より不足）せるを以て全般の状況上師團長は
十四日二十四時先づ平岡部隊を引續き勝武屯の村上部隊の撤退を命
ず。

夜に入ると共に勝武屯陣地に對する敵の攻撃は猛烈を極め其の主力
は勝武屯と平岡部隊陣地の間隙に深く浸透し來ると共に敵の戦車は
勝武屯と孫吳道を突破して孫吳方面に突進し來り。又奇克特附近
より渡河せる敵機械化部隊は河岸に沿ひ勝武屯に近く移動し來り
平岡部隊は師團命令に依り夜半陣地を撤して主陣地に向ひ後退中、
遼寧河とエユル河との合流点附近に於て濃霧中勝武屯方向より南
下し來れる蘇軍戦車隊と不意に衝突し、平岡少佐は戦死し其の他の

再登

0786

者は過半立河を渡り南陽山附近に集結せり。過河（地名）を経て平

五六

間部隊正面に逼らせる敵は歩兵一小隊に過ぎざりき。

勝武屯警備隊は本夜半有力なる敵軍に陣地を突破せられ、隊軍威
軍取は絶たず、勝武屯街道を治下す。

師團は工兵隊をして同街道上の橋梁を破壊せしむると共に直轄せる
挺進隊を派遣し且師團挺進大隊、第一線部隊をして猛烈なる挺進攻
撃を行はしむ。

勝武屯警備隊（村上都隊）は連絡断絶して無線呼出にも應せず傳令
も傳達困難の状態に陥りしが迥く同部隊より一下士官連絡に依り「
信装置は破壊し暗号書亦焼却し終りたるも、受信装置は健在する」
旨報告ありしを以て師團は生交を以て後退を命令し續けたるも遂に
同部隊の一部の帰還を見るのみにして三力の状況は不明に終れり。

（後に此の部隊は北安方面へ脱出したること判明す）

後陣方面に在りても敵は遂次陣地に接近して來たれるも前進部隊の

0787

勇敢なる防禦戦闘と挺進部隊の戦闘により敵の前進頗る鈍く、逐次主陣地帯の攻勢準備につぎつぎあり。

作戰第七日（八月十五日）

藤軍は孫吳一勝武屯道上の橋梁を修理して逐次進出し鄭家窩棚の飛行場附近に集結し又一部砲兵は階行社附近に進出して陣地を占領す。師團は一部砲兵を以て之を射撃す。

此日敵の歩兵斥候は主陣地附近に潜入し來れるものあり。又戰軍竝に敵騎兵等が陣地直前に逼りせり等流言蜚語盛んに發生す。師團は本夜歩兵第二百六十九聯隊を以て飛行場附近の敵を攻撃するに決し、種々準備整策する処ありしが其の實行に至らずして停戦する事となれり。

十五時過軍より一本十五日正午重大御放送あるに依り謹聴すへしとの來電あり。時既に遅く聴取の機を失したるも十七時頃歸國關東軍特務隊より日本降伏の放送をなしありとの通報に接し、師團長以

下愕然たるものありしが眞偽を尙確認する必要もあり、五八下一般の士
氣に關する問題もあるに依り一應外部に發表することなく世界各地
の無線放送を總取せしめしかば、其の眞實なるを認め、二十時頃各
部隊長の集合を命じ日本の無條件降伏を傳達すると共に、極端妄動し
て大局を誤ることなき様、驛驛共々に下るの師團長の命令並に訓示を傳
達す。

獨立混成第一三五旅團に対しては電話故障の爲十分師團長の意圖を
傳ふる事能はざりき。尙當時無線は不通なりき。

作戰第八日（八月十六日）

師團長は停戦の六命により片山參謀を軍使として陣地外に差遣し蘇
軍に対し停戦を申し込みたり。

片山參謀は蘇軍司令官と会見し、誠ね左の如き蘇軍の条件を總取して
正午頃歸還す。

一日本軍は本十七時迄に一切の戦闘行動を停止すること

中日軍は明十七時迄に陣地内指定の位置に武器を築積したる後、
突如各地帯に全貴築積のこと

三通信連絡機關は一切使用を禁止し謀互に捷出すべし

四爾今一切の建築物、武器、資材の破壊焼却を禁止す

五石の積集項を犯す時は直ちに攻撃を開始し殲滅す

尙第二項の兵器築積所は陣地内五ヶ所に指定せられ現地に於て築
積數量を記録せる書類と共に支那の爲差違せらるゝ謀軍將校に引
渡すこと

師團長は右の諸條件を何等の訂正なく其の儘受領するに決し種々
山諜謀を交渉の端差遣す。

尙謀軍司令官より師團長に於し明十七日正午孫吳西端十字路附近に
於て会見を申し込み來りたるを以て師團長は之を承諾す。

此夜各部隊は多少の動揺を避して概ね所命の通り停戦の主旨を一貫
兵に至る迄徹底せしむ武器を築積し、與海位置に到る準備を整へた

り。
軍旗は午前五時迄に無事奉還す。

尙河部少佐の指揮する輜重兵第一二三號隊は同少佐の命により部隊を解散せるを以て同部隊の兵は三々五々行動するに至れり。

作勳第九日（八月十七日）

部隊は概ね豫定の通り集結す。

師團の人員は開戦と共に應召兵、義勇隊員等を收容して陣地に就きし際は概ね二万七千名なりしが本日集結地に集合せる人員は概ね一万五千名に過ぎず。

師團長は蘇軍第二軍司令官セージューヒン中將と会見の後集結地に到れり。

本日に到るも尙瓊璉及二站の陣地占領部隊は各所に散在する挺進隊は未だ戦闘行動を停止せず、果敢なる戦闘を継続するもの鮮なからず。

0791

師團は停戦命令の徹底を期する為傳令其他為し得る限りの手段を講じたるも容易に所期の目的を達することを得ず。

作戦第十日（八月十八日）

蘇軍側の調査開始せらる。

調査官は主として蘇軍司令部關係の將校にして我が師團長以下各級幹部に対し執拗綿密に行ひたり。

調査は八月二十五、六日頃迄連續行はれ、最初は主として師團の人員と引渡兵器の員數の照合を嚴密に行はれ、其後各調査官の担任事項に基き師團の作戦計畫、編制裝備、教育、築城等各段の事項に就て調査せらる。

四 彼我の損害

一 我が損害

師團の戦闘は主として前進部隊及掘進部隊を以て行はれ且終戦と同時に通信網を削せられ且戦闘實行の現地に行く事も禁止せられ

六一

0792

し為損害の實數を知得する事を得ず。

只作戦開始當時總數二万七千名の人員は終戦後集結せるもの約一万五千名にして約一万二千名の差を生じたり。此の中大多數は隨意に部隊を離脱して北安方面に逃避せる者にして實際の戦死者は約五〇〇名程度と判断せらる。但し孫吳より脱出した者の中途中滿、鮮人若くは蘇軍の襲撃を受け死亡せる者は鮮少ならざるべし。又北安迄離脱して遂に抑留せられたる者も多數ありたり。

蘇軍の損害

蘇軍の損害に就ては不明なるも勝武屯奮備隊及壕陣地の戦闘に於て相當の敵を殺傷したる事は事實なり。又二站陣地に於ては敵戦車に若干の損傷を蒙へたり。

五 終戦後の情況

1. 蘇軍の行動

師團と交戦したる蘇軍部隊は約一週間程孫吳附近に滞在したる後

0793

哈爾濱方向に南下せり。

右の跡には内務人民委員部の中佐を長とする警備隊遺留し治安警備に在す。

2. 師團の給養は我軍の陣地内に集積せる食糧を使用す。

蘇側は定量使用して可なる旨指示せるも師團は前途の見通しつかざるを以て定量の七割を使用する事とせり。

3. 建設隊の派遣

八月下旬頃より九月初旬に亘り蘇軍は孫吳官舎地帯に集結せる師團を千名宛の部隊に區分編成し之を建設隊と呼稱し、其の行先を巧みに偽騙しつゝ、蘇領内に誘導せり。

九月十日頃迄に主隊を山越せしめ後には尙若干の將校、患者等遺留せるも、之も間もなく蘇領へ移送せられたり。

第四 其の他の状況

一、在留邦人、開拓團等の状況

孫吳附近の在留邦人は極めて少數なりしを以て悉く軍人軍属の家族六四と行動を共にせしめたり。

開戦と同時に訂登に基き家族、在留邦人は悉く師團の陣地内に在る歩兵第二百九十八聯隊、同第二日七十聯隊等の兵營内に收容す。然れども作戦経過を考慮し速かに後方哈爾濱へ後退せしむることに變更し、八月十二日出發全員北安方向へ後退せしめたり。

後方附近の一般邦人及軍人家族は當初豫定に基いて籠城の覺悟を定め陣地内に入りたるも、戦闘開始後其の不利なるを知り十二日夜過く孫吳附近に後退し來れり。然し乍ら時既に孫吳―北安間の鐵道不通となりし為止むを得ず孫吳の輕軍官舎の一角に集結せる儘停戦となりたり。

ダイガク開拓義勇團の生徒は一部直踏北安方面へ後退せるも大部は孫吳の陣地内に收容して後方勤務等に従事す。

三、滿洲國政府機關

松本兼龍江省長は部下若干名と共に無河より引揚げ師團司令部へ來着せり。師團長は省長の消息に基き新京に後退して狀況を滿洲國政府に傳達する為證明書を與へて去らしめたり。其の他の多數日系官更は皆師團の陣地内に入り或は北安一孫吳地區に在りて防禦戰鬥に或はゲリヲ戰に従事せり。

三 滿洲國軍及警察の狀況

開戰前に於ては滿軍の一編隊四站附近に在りて瑗輝一齊々哈爾濱を守備する為陣地の構築に任じ又二站附近にも若干の滿軍陣地構築に當りありしが其後の狀況は不明なり。四站附近の滿軍は日系將校を殺し四散せりとの事なり。

四 滿人、鮮人の狀況

戰場附近に於ては動搖はありたるも敢て我軍に対して積極的に不利を図る如き事はなかりき。

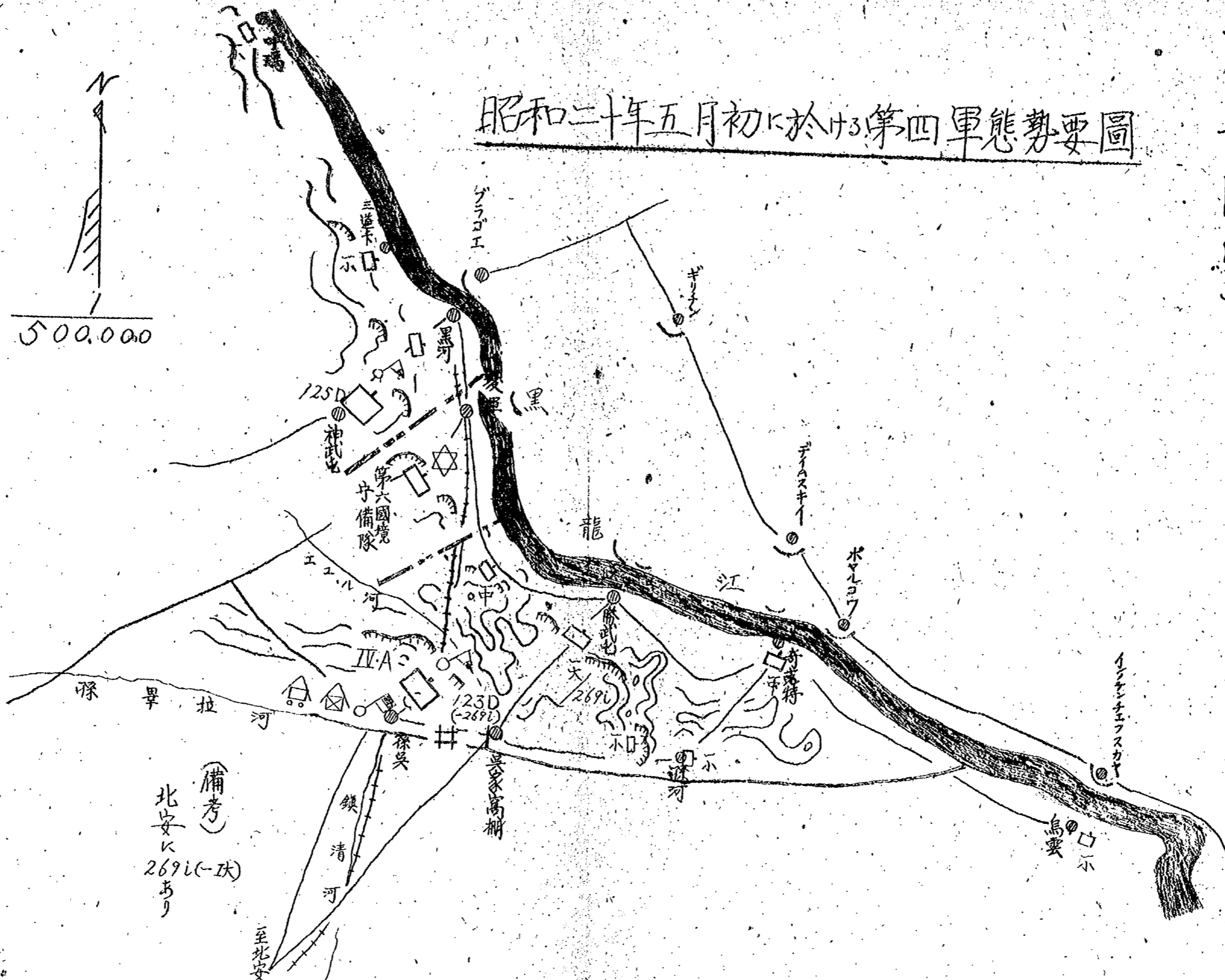
但し我軍の離隊兵を襲撃して之を殺害し或は戰死者の兵器裝具を掠

奪し又は官舎其他の空屋より家具物品を盗む等のことは多々ありた^{六六}
り。孫英より後送せる邦人及軍人家族等は北安に於て猛烈なる掠奪を
蒙り殆んど着のみ着のまゝとなりたり。

0797

昭和二十年五月初に於ける第四軍態勢要圖

附圖第一

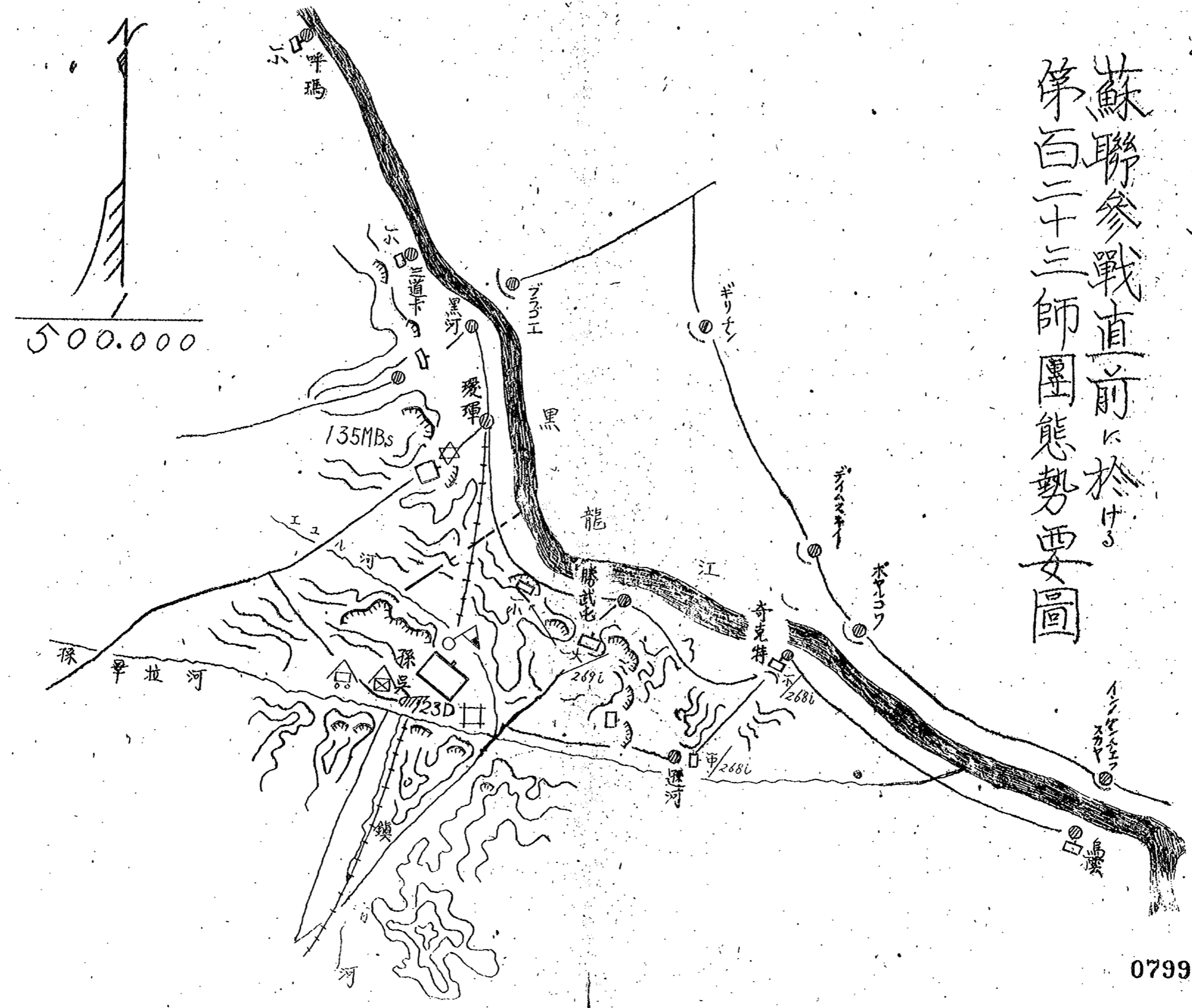


(備考)
北安に
269L(-ZK)
あり

0798

附圖第二

蘇聯參戰直前に於ける
第百二十三師團態勢要圖



0799

附圖第三

孫吳附近123D防禦陣地配備及作戰經過要圖

